

名古屋市立大学麻酔科専門研修プログラム（2026 年度）

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域で、患者の命を守り安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能となるように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、名古屋市立大学病院（以下、名市大）および教育連携施設において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

本プログラムの特徴は、以下の3点である。

- ① **Education** : 多彩な指導者による**充実した教育環境**で研修できる。
- ② **Riches** : 連携を生かして新生児から高齢者まで**多彩な症例**を経験できる。
- ③ **Synergy** : 麻酔、集中治療、ペインクリニック、周産期麻酔を**並行して研修**できる。

基幹施設は大学病院であり、様々な分野の専門性を持った豊富な指導医陣による充実した教育環境を有する。臨床だけでなく、学会発表や論文作成を積極的に経験することを推奨しており、研究遂行能力やプレゼンテーション技術を同時に身につけられる。また、多分野を並行して研修することで、各分野の研修を補完しあい、より効果的な研修が可能となる。多分野での研修は他科医師や多職種のメディカルスタッフとの交流機会の増加にも繋がり、チーム医療の基礎を身につけるのにも役立つ。

本研修プログラムでは、基幹施設を中心とした研修に加え、それぞれ特色のある教育環境をもつ連携施設での研修を組み合わせることにより、専攻医のニーズに配慮した研修プランを提供し、麻酔の基礎的な知識と技術を習得することはもちろんのこと、様々なサブスペシャリティーを有した麻酔科医の育成を目標とする。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料『麻酔科専攻医研修マニュアル』に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

基幹施設である名市大は、専門研修プログラムの中心施設として研修プログラムの運営を担うとともに、研修の質を担保できるように、名古屋市立大学麻酔科専門研修プログラム管理委員会を開催し、研修プログラムの方針策定・内容の改善、各専攻医の研修の進行状況の把握・修了認定を行

う。

● 幅広い研修

研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるよう、ローテーションを構築する。一方で、最低限の必要経験症例数にこだわることなく、それぞれの専攻医が苦手な分野を作らないように、偏りなく研修できるように配慮する。

● 将来の専門分野を探す

特に興味がある分野や得意にしたい分野があれば、大学病院と連携施設の選択肢を最大限に駆使して、キャリアプランに合わせたローテーションを考慮する。

● 様々な施設での経験

原則として複数施設での研修を行い、各施設での研修期間は1年以上とする。連携施設Bでの研修は2年を超えない。専攻医のニーズや連携施設の状況によっては、連携施設での研修は最短3ヶ月とすることも可能とする。

<研修実施計画例>

以下のような研修実施例があるが、各専攻医のニーズに応じて、アレンジ可能である。

■ 研修施設から選ぶ

✓ 名市大メインコース

・名市大で2～3年間研修 → 連携施設で1～2年間研修

✓ 連携施設メインコース

・連携施設で2～3年間研修 → 名市大で1～2年間研修

■ 研修内容から選ぶ

麻酔と集中治療（closed-ICU・PICU）を同時に研修したい人

名市大では、麻酔科主導による closed-ICU および PICU（pediatric ICU）を運営している。麻酔研修と同時に集中治療の研修開始しており、救急や院内急変症例、小児から成人まで幅広く経験できる。連携施設の中にも麻酔科管理による closed-ICU を有する施設が多く、これらの施設でも麻酔と集中治療を同時に研修できる。

心臓麻酔に重点をおいた研修をしたい人

名市大では、TAVI、MICS、WATCHMAN（経皮的左心耳閉鎖術デバイス）など先進治療を含んだ多彩な症例を経験できる。日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、日本周術期経食道心エコー（JB-POT）認定医・心臓血管麻酔専門医の取得を目指した研修が可能である。成人症例と並行して、小児心臓麻酔研修も可能である。連携施設でも成人心臓血管麻酔研修が可能。小児専門連携施設では、集中的な小児心臓麻酔研修が可能である。

超音波ガイド下末梢神経ブロックを習得したい人

毎年、初心者向けの末梢神経ブロックハンズオンセミナーやカダバートレーニングを開催している。区域麻酔学会認定医・指導医や日本区域麻酔検定試験（J-RACE）合格者も多数在籍し、指導環境が整っている。連携施設においても区域麻酔に力を入れている施設が多く、研修可能である。

産科麻酔や無痛分娩を学びたい人

名市大には周産期麻酔部門があり、周産期麻酔のエキスパートの下で、通常の帝王切開麻酔だけでなく、重症妊産婦管理や先天性疾患胎児の対応などを含めた周産期管理について研修できる。無痛分娩センターでは、麻酔科管理による硬膜外分娩を実施しており、多職種チームによる周産期管理を学ぶことができる。

ペインクリニックや緩和医療を学びたい人

名市大病院「いたみセンター」（集学的痛みセンター）では、インターベンショナル治療や薬物療法を用いた従来のペインクリニック診療に加え、身体・精神の痛みの専門家から成る多職種チームによる難治性慢性痛に対する集学的診療に取り組んでいる。専属の心理士が常駐し、慢性痛に対する心理学的アプローチについても学ぶことができる。また、緩和ケア部との連携もあり、希望に応じて研修可能である。

救急医療に重点をおいた研修をしたい人

名市大病院救急科との連携により、救命救急センターでの研修が可能である。救急科には麻酔科出身の救急専門医やその他の様々な背景を持つ指導医が在籍し、専門的な研修が可能である。連携施設においても、救急医療に力を入れている施設が多く、希望に応じて研修可能である。

<週間予定表>

名市大麻酔科ローテーションの一例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	麻酔	ICU	術前外来	麻酔	心臓麻酔	休み	休み
午後	麻酔	ICU	休み	麻酔	心臓麻酔	休み	休み
夜間	—	当直	—	—	副直	—	—

※ 副直は自宅待機。

手術麻酔研修・心臓麻酔研修

AM 8:30～ 毎朝の麻酔カンファレンスにて担当症例のプレゼンテーションを行う。

AM 9:00～17:00 指導医の下で、手術室～PACU・ICUまで周術期を通した麻酔管理を研修する。

術前・術後診察を行い、術前評価や術後鎮痛についても研修する。

一般的な全身麻酔症例のみでなく、区域麻酔や周産期麻酔についても研修する。

心臓麻酔は指導医と2人体制で担当し、経食道心エコーの研修を含めた、周術期管理を研修するとともに、心臓血管外科や循環器内科との術前カンファレンスや、心臓血管外科・臨床工学技士・看護師らとの術後カンファレンスにも参加する。

ICU研修

AM 8:30～17:00 毎朝のカンファレンス（当直・日勤間の申し送り＋主科とのカンファレンス）に参加した後、指導医とともにICU管理を担当する。院内急変発生時には指導医とともに対応する（Rapid Response Systemおよびコードブルーに対応）。毎週行われているICU患者に関する各種カンファレンスに参加し、画像診断、栄養療法、抗菌薬適正使用・院内感染対策等を学習する。

- ・放射線カンファレンス：週 1回
- ・NST（栄養サポートチーム）、リハビリカンファレンス：毎朝
- ・ICT（感染対策チーム）カンファレンス：週 1回

その他の研修

研修期間後半を目安に、希望に応じて、専門的な研修の機会を取り入れている。

（上記の研修実施計画例を参照）

- ・いたみセンター研修：多職種カンファレンス参加、外来診療、入院患者（持続神経ブロック、脊髄刺激電極埋め込み患者など）の担当
- ・無痛分娩センター研修：多職種カンファレンス参加、硬膜外分娩見習い研修など

当直・副直、週休・年休について

働き方改革に合わせ基本的には週休2日制（月～金曜研修）で、年休は15日以上取得可能。当直・副直は月数回担当があり、夜間・休日に従事した際は所定休日を設け補填する。当直は指導医と2人体制で担当し、主にICU管理を行う。緊急手術や延長した手術麻酔にも対応する。翌朝のICUカン

ファレンスでは、当直専攻医がICU入室中の全患者のプレゼンテーション（申し送り）を行い、その場で指導医の捕捉・指導を受ける。

4. 研修施設の指導体制

名古屋市立大学病院（基幹施設）および17の教育連携病院により構成される。

＜基幹施設＞ 名古屋市立大学病院

＜連携施設 A＞（五十音順）

・大学病院

- (1) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
- (2) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター
- (3) 名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院

・医局関連病院

- (4) あいち小児保健医療総合センター
- (5) 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
- (6) 岡崎市民病院
- (7) JA 愛知厚生連 安城更生病院
- (8) JA 愛知厚生連 海南病院
- (9) 豊川市民病院
- (10) 日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第二病院

・プログラム関連病院

- (11) 一宮市立市民病院
- (12) 公益社団法人 日本海員掖済会 名古屋掖済会病院
- (13) 国立病院機構 豊橋医療センター
- (14) JA 愛知厚生連 豊田厚生病院
- (15) 社会医療法人宏潤会 大同病院
- (16) 日本赤十字社 伊勢赤十字病院
- (17) 兵庫県立こども病院

専門研修基幹施設：

名古屋市立大学病院

名市大麻酔科ウェブサイト URL <http://www.ncu-masui.jp/>

研修実施責任者：祖父江 和哉 kensyu@ncu-masui.jp

専門研修指導医：祖父江 和哉	(麻酔, 集中治療, いたみセンター)	
田中 基	(麻酔, 周産期麻酔)	
杉浦 健之	(麻酔, いたみセンター)	
徐 民恵	(麻酔, 集中治療, いたみセンター)	
田村 哲也	(麻酔, 集中治療)	
太田 晴子	(麻酔, 集中治療, いたみセンター)	
上村 友二	(麻酔, 集中治療, 周産期麻酔)	
加藤 利奈	(麻酔, いたみセンター)	
青木 優佑	(麻酔, 集中治療, 周産期麻酔)	
中井 俊宏	(麻酔, 集中治療, 救急医療)	長谷川 達也 (麻酔, 集中治療, 周産期麻酔)
牧野 佑斗	(麻酔, 集中治療, 周産期麻酔)	佐藤 範子 (麻酔, いたみセンター, 周産期麻酔)
佐藤 玲子	(麻酔, いたみセンター)	
横井 礼子	(麻酔, 周産期麻酔)	

麻酔科認定病院番号：55（1968 年 麻酔科認定病院取得）

施設の特徴

大学病院として高度先進医療を提供するとともに、名古屋都市圏の中核医療機関として地域医療に貢献している。教育熱心で様々な分野の専門性を持った指導医が多く在籍し、幅広い分野での研修環境が整っている。

- ① 日本集中治療医学会専門医研修施設。集中治療専門医が多数在籍し、麻酔科主導による closed-ICU および PICU を運営。重症 COVID 肺炎の管理にも積極的に関わっている。
- ② 日本心臓血管麻酔専門医認定施設。心臓血管麻酔専門医・JB-POT 認定医が複数在籍。
- ③ 日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設。ペインクリニック専門医が複数在籍。いたみセンターでは、従来のペインクリニックに加え、多職種の専門家による集学的診療を経験できる。
- ④ 総合周産期母子医療センター指定。周産期麻酔部門があり、ハイリスク妊産婦の症例に対応している。無痛分娩センターでは麻酔科管理による硬膜外分娩（無痛分娩）を研修できる。
- ⑤ 救命救急センター指定。救急科が運営しているが、適宜研修可能。

シミュレーションセンター併設。各種シミュレーターが配備され、経食道エコーや気道確保等の練習が随時可能。毎年、麻酔科主催でのハンズオン講習や各種セミナーも実施している。

研修内容の特徴については、前述の研修実施計画例および週間予定表「名市大麻酔科ローテーションの一例」を参照。臨床のみでなく、定期的な勉強会の開催、学会発表・論文作成、臨床研究の指導においても、教育体制が充実している。

専門研修連携施設 A：

(1) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

病院ウェブサイト

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/seibu/medical/medical-departments/anesthesia/>

研修実施責任者： 草間 宣好

専門研修指導医： 草間 宣好 (麻酔, 集中治療, ペインクリニック)

笹野 信子 (麻酔, 集中治療, ペインクリニック)

高 ひとみ (麻酔)

坂本 みな実 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：1156

施設の特徴

地域周産期母子医療センターの認定施設であり、合併症がある帝王切開症例や新生児手術が多いことが特徴です。また日本ペインクリニック学会、日本集中治療学会の研修施設として認定されています。

週間スケジュール

外来：術前外来（火曜から金曜の午前）、ペインクリニック（火曜・木曜の午前）。

手術：月 整形外科 小児外科 消化器外科 眼科

火 消化器外科 呼吸器外科 耳鼻咽喉科 形成外科 口腔外科

水 呼吸器外科 産婦人科 泌尿器科 硬膜外分娩（無痛分娩）

木 産婦人科 耳鼻咽喉科 口腔外科 硬膜外分娩（無痛分娩）

金 産婦人科 小児外科 形成外科 耳鼻科 硬膜外分娩（無痛分娩）

集中治療室：平日全日

(2) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター

病院ウェブサイト <http://www.emc.med.nagoya-cu.ac.jp/index.html>

研修実施責任者： 森島 徹朗 tetsuomorishima@gmail.com

専門研修指導医： 森島 徹朗 (麻酔, 集中治療)

佐野 文昭 (麻酔, 集中治療)

工藤 妙 (麻酔)

専門医： 山村 董平 (麻酔, 集中治療)

横田 智絵 (麻酔, 集中治療)

麻酔科認定病院番号：768

施設の特徴

① 名古屋市の中心部に位置し、520床を有する救急に力を入れている名市大附属病院。

② 手術室の麻酔管理と麻酔科管理の集中治療（closed ICU）の研修環境が完備。

③ 日本集中治療医学会専門医研修認定施設であり、専門医取得のための指導が受けられる。

④ 日本周術期経食道心エコー認定医が複数在籍し、認定医取得のための指導が受けられる。

⑤ 日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設であり、専門医取得のための指導が受けられる。

⑥ 日本区域麻酔学会認定指導医が在籍し、認定医取得のための指導が受けられる。

週間スケジュール

・ 毎日、午前 8:45～8:55 麻酔症例カンファランス

・ 毎日、午前 8:45～9:05 ICU カンファランス

・ 毎日、午前 9:00～11:00 術前外来診察

- ・ 随時、担当症例の振り返り・ミニ勉強会
- ・ 毎週火曜日、午後 4:00～4:30 心臓外科術前カンファランス
- ・ 毎週水曜日、午後 3:00～3:30 ICU ICT カンファランス
- ・ 毎週木曜日、午後 2:30～3:00 ICU NST カンファランス

(3) 名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院

病院ウェブサイト <https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/midori/>

研修実施責任者： 藤田 義人 fujitayoshihito@yahoo.co.jp

専門研修指導医： 藤田 義人 (麻酔、集中治療、救急医学)
香川 沙織 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：2024

施設の特徴

- ① 2023/04/01 に新規に名古屋市立大学医学附属の病院として開院しました
- ② 2030/04 に名鉄鳴海駅直結の 345 床の新病院に移転予定です
- ③ 地域密着型の大学病院としてのニーズに対応するよう手術、ICU 環境を整えている最中です
- ④ 2023 年度は手術 650 件、麻酔科管理全身麻酔 372 件でした
- ⑤ 手術室 7 (実働 4)、ICU4 床 (整備中) です
- ⑥ 手術は現在、消化器外科、心臓外科 (EVAR のみ)、整形外科、泌尿器科で順次増やす予定です
- ⑦ 最新のエコーで神経ブロックを多用しています
- ⑧ その患者さんにとって最適の麻酔を提供する“滴定麻酔”を実践するよう努力しています
- ⑨ 患者さんに合った安全な麻酔を学ぶことができます

(4) あいち小児保健医療総合センター

研修実施責任者： 宮津 光範

専門研修指導医： 宮津 光範 (小児麻酔、小児集中治療、医療経済学)

山口由紀子 (小児麻酔、産科麻酔)

加古 裕美 (小児麻酔)

小嶋 大樹 (小児麻酔、シミュレーション医学、臨床疫学)

渡邊 文雄 (小児麻酔、小児心臓麻酔、心臓エコー)

青木 智史 (小児麻酔、小児集中治療、臨床倫理)

北村 佳奈 (小児麻酔、小児心臓麻酔)

一柳 彰吾 (小児麻酔、QI)

専門医： 川津 佑太 (小児麻酔、シミュレーション医学)

鵜沼 篤 (小児麻酔、教育学、シミュレーション医学)

中野 晃輔 (小児麻酔、心臓麻酔)

森下 博隆 (小児麻酔)

野原 静華 (小児麻酔、臨床疫学)

麻酔科認定病院番号：1472

特徴：すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。産科麻酔領域では帝王切開の麻酔に加え、硬膜外（無痛）分娩も経験できる。

＜当センターの強み＞

- A. 国内および海外小児病院出身の小児麻酔エキスパートから直接指導が受けられる。高機能・高忠実度マネキンを用いた先進的な麻酔シミュレーション、スタッフによる系統レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。英語の教科書を使ったフェロー主体の症例ベースの勉強会を行っている。
- B. 小児麻酔技術の習熟に最適な泌尿器科や眼科の短時間手術症例が多く、短期間で効率よく経験を増やすことができる。エコーを用いた血管穿刺、仙骨硬膜外麻酔や末梢神経ブロックに力を入れている。MRI・CT・RIや腎生検における手術室外鎮静も麻酔科が行っている。
- C. 2024年度の手術症例数はセンター開設以来最高を記録した。新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が近年増加中であり、症例数は東海北陸地方で最多である。当センターは心臓血管麻酔専門医認定施設であるが、心臓血管麻酔専門医が複数名在籍する小児病院は全国でも稀である。フェローは3ヶ月経過後から心臓麻酔研修を開始する。三次元コンピュータグラフィックスを利用した経食道心エコー教育を導入している。センター内に3台の小児用EXCORを保有しており、心臓移植待機目的のLVAD管理を積極的に実施している。
- D. 臨床研究および英文論文執筆を含む研究指導にはとくに力を入れている。年間を通じて疫学統計セミナーを開催しており、フェローは臨床業務を離れて毎回受講可能である。英文論文を執筆したいフェローにはスタッフが投稿まで責任をもってサポートする。名古屋大学医学部連携大学院を小児センター内に併設しており、当センターで勤務しながら「PhD；博士（医学）」の学位取得が可能である。その他の学位取得実績としては、「MPH；公衆衛生学修士（専門職）」、「MBA；修士（経営学）」などがある。単位取得に必要な授業の履修に配慮した勤務が可能である。
- E. 東海北陸地方最大規模となる16床のPICUは、小児集中治療のエキスパートらにより専従管理されるclosed-ICUである。小児ECMOセンター機能を有しており、ECMO症例数は全国で最も多い。PICUにも麻酔科医が複数名在籍しており、シームレスなPICU研修が可能である。
- F. ドクターヘリによる他院からの搬送およびヘリによるドクターデリバリー（当センター医師をヘリで派遣）が増加傾向であり、愛知県だけでなく岐阜県や三重県からも広く重症患者を集めている。2024年度から、県営名古屋空港を拠点とした小児重症患者専用ドクタージェットの運用が開始され、北陸地方からの転院搬送実績もある。

（5）医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院

病院ウェブサイト <http://www.toyota-kai.or.jp/>



研修実施責任者：山内 浩揮

専門研修指導医：	山内 浩揮	(麻酔, 集中治療, 救急)
	安藤 雅樹	(救急, 集中治療)
	黒田 幸恵	(麻酔, 集中治療, 救急, ペインクリニック)
	吉澤 佐也	(麻酔, 集中治療, 救急)
	鈴木 宏康	(麻酔, 集中治療, 救急)
	小笠原 治	(麻酔, 集中治療, 救急)
専門医：	春田 祐子	(麻酔, 集中治療, 救急, ペインクリニック)
	前田 洵哉	(麻酔, 集中治療, 救急)
	山田 貴大	(麻酔, 集中治療, 救急)
	伊藤 遥	(麻酔, 集中治療, 救急)
	長田 美保	(麻酔, 集中治療, 救急, ペインクリニック)

麻酔科認定病院番号：456（1987 年 麻酔科認定病院取得）

施設の特徴

- ・ 地域基幹病院であり、ほぼすべての診療科があり、豊富な麻酔症例を経験することができる。
- ・ 常勤麻酔科医が 23 名と多数在籍している。日本専門医機構麻酔科専門医、日本麻酔科学会指導医・専門医、心臓血管麻酔専門医、JB-POT 認定医、J-RACE 認定医、日本集中治療医学会専門医、救急科専門医が含まれ、指導体制が充実している。
- ・ 日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、心臓血管麻酔専門医や JB-POT が取得できる。
- ・ 救命救急センター指定を受けており、ICU/救命病棟 26 床を麻酔科が主導し管理運営している。すべての診療科の重症患者管理を経験することができる。専攻医 3 年目以上の 集中治療専門医取得希望者には ICU 専従研修を行っている。
- ・ 年間救急患者数約 26,300 名、年間救急車搬入台数約 9,450 件(2024 年度)と愛知県内有数の実績を誇り、3 次救急の初期対応、緊急手術麻酔管理、術後管理をシームレスに経験できる。ドクターカーを運用している（週 3 日）。
- ・ 術後疼痛回診、ペイン外来（週 3 日）や緩和ケア病棟・緩和ケアチームを経験できる。

(6) 岡崎市民病院

病院ウェブサイト <https://www.okazakihospital.jp/>

研修実施責任者：辻 麗

専門研修指導医：	中野 浩	(麻酔, 集中治療, 救急)
	辻 麗	(麻酔)
	辻 達也	(麻酔, 集中治療)

麻酔科認定病院番号：21400423

施設の特徴

- ① 地域の基幹病院であり、ほぼ全ての診療科が揃っているため、豊富な麻酔症例を経験でき、麻酔管理能力を培うのに適した環境である。
- ② 麻酔科には麻酔科学会指導医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本集中治療医学会専門医、救急科専門医、日本周術期経食道心エコー（JB-POT）認定医、日本小児麻酔学会認定医、日本区域麻酔検定試験（J-RACE）合格者が在籍し、指導体制が充実している。
- ③ 日本専門医機構認定集中診療科専門研修施設であり、集中治療専門医を目指した研修が可能である。
- ④ 西三河南部東医療圏唯一の第三次救急医療施設であり、年間約 9000 台の救急車を受け入れていることから、重症症例の緊急手術麻酔管理、術後管理を経験できる。救急医療も研修可能である。
- ⑤ 開心術およびステントグラフト内挿術、TAVI 手術などの成人心臓麻酔管理を経験できる。JB-POT 認定医による指導の下、同資格を目指すことができる。
- ⑥ 地域周産期母子医療センターであり、超緊急帝王切開やハイリスク妊婦の麻酔を経験することができる。
- ⑦ 健康な小児の一般的な麻酔経験をすることができる。
- ⑧ 硬膜外麻酔、末梢神経ブロックなどの区域麻酔を積極的に施行しており、研修が可能である。
- ⑨ ICLS、AHA-BLS、ACLS、PEARS や JPTEC 等を院内で受講可能である。
- ⑩ 出産・育児中にある医師に対しては両立を積極的に推進している。

週間スケジュール

- ・午前 8:30～8:50 麻酔症例カンファレンス
- ・午前 8:30～9:00 ICU カンファレンス
- ・午前 9:30～12:00 術前外来診察
- ・毎週水曜日午後 2:30～3:30 心臓外科術前カンファレンス
- ・木曜日（不定期）午後 4:00～5:00 TAVI カンファレンス

(7) JA 愛知厚生連 安城更生病院

病院ウェブサイト URL <http://anjokosei.jp/>

研修実施責任者：森田 正人 syrch127@ybb.ne.jp

専門研修指導医：森田 正人 （麻酔、小児麻酔、集中治療）
山本 里恵 （麻酔）
谷口 明子 （麻酔、心臓麻酔、集中治療）
久保谷 靖子 （麻酔）
井上 雅史 （麻酔、集中治療）
岡野 将典 （麻酔）
田淵 昭彦 （救急）
久保 貞祐 （救急、集中治療）

麻酔科認定病院番号 246（1996 年 麻酔科認定病院取得）

施設の特徴

1. 愛知県西三河南部圏最大の中核病院で常に東海地区マッチング率上位であり、優秀な研修医が多いため病院中が活気に満ちている。他診療科が麻酔科に非常に協力的であり、有能なメディカルスタッフと協働できる恵まれた職場環境が整っている。

2. 高いレベルを誇る心臓手術麻酔を経験できる。開心術に加えて、ステントグラフト内挿術、TAVI手術や経皮的僧帽弁クリップ術等の血管内手術も多く行われている。日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、経食道心エコー（JB-POT）の資格や心臓血管麻酔専門医取得を目指すことができる。
3. 同様に他の外科系も名古屋大学を中心とした重要な中核病院であるため、レベルが高く多岐にわたる症例を経験できる。そのため麻酔管理能力の養成に適した環境である。外科、泌尿器科、産婦人科、胸部外科でロボット支援下手術も行われている。
4. 総合周産期母子医療センターを有しており、超低出生体重児を含めた新生児症例やハイリスク妊婦の麻酔も豊富に経験できる。日本小児麻酔学会認定医の指導の下、同資格を取得できる。
5. 集中治療、救急も麻酔科が関与しているため希望があれば活躍の場が大きい。
6. 手術麻酔において末梢神経ブロックを積極的に施行しており、十分な研修が可能である。日本区域麻酔検定試験（J-RACE）も多数が合格している。
7. 出産・育児中にある女性医師をサポートできる体制がある。

(8) JA 愛知厚生連 海南病院

病院ウェブサイト <http://www.kainan.jaaikosei.or.jp/>

研修実施責任者：有馬 一	604623@kainan.jaaikosei.or.jp
専門研修指導医：有馬 一	（麻酔，集中治療）
竹内 直子	（麻酔，集中治療）
衣笠 梨絵	（麻酔，集中治療）
関谷 晃憲	（麻酔，集中治療）
大矢 真	（麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号：1249（2007 年 麻酔科認定病院取得）

施設の特徴

- ① 地域の基幹病院として、また救命救急センターを併設しており、ほぼ全ての診療科が揃い豊富な症例を経験可能。
- ② 集中治療を同時研修（麻酔科管理による Closed ICU での研修）。
- ③ JB-POT 認定医による成人心臓麻酔管理および周術期経食道心エコーの指導が受けられる。
- ④ 末梢神経ブロックに習熟した指導医により、難易度の高いブロックまで研修が可能。
- ⑤ 様々な救急疾患の初期対応、緊急手術麻酔管理、重症患者管理をシームレスに経験できる。

週間スケジュール

8：00- 8：30 勉強会（金曜日）
 8：30- 9：00 ICU カンファレンス（毎日）
 9：00-12：00 麻酔科術前外来（麻酔科標榜医が担当，毎日）
 16：45-17：00 ICU ベッドサイドでカンファレンス（毎日）
 その他の時間は麻酔あるいは ICU 研修

(9) 豊川市民病院

病院ウェブサイト <https://www.toyokawa-ch-aichi.jp/>

研修実施責任者：伊藤秀和	oniheizo1745@gmail.com
専門研修指導医：伊藤秀和	（麻酔，小児麻酔）
平田陽祐	（集中治療）

麻酔科認定病院番号：1370

施設の特徴

- ① 東三河の基幹病院として全ての診療科を揃えており、豊富な症例が経験可能である。
- ② 愛知県から救命救急センター、地域中核災害拠点病院、がん診療拠点病院の指定を受けており、それらに関連する麻酔症例が経験可能である。

(10) 日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第二病院

研修実施責任者：	寺澤 篤	
専門研修指導医：	棚橋 順治	(麻酔、集中治療、緩和、ペインクリニック)
	寺澤 篤	(麻酔、集中治療)
	平手 博之	(麻酔、集中治療)
	杉本 憲治	(麻酔、集中治療、国際救援)
	田口 学	(麻酔、集中治療)
	古田 敬亮	(麻酔、集中治療)
	井上 芳門	(麻酔、集中治療、国際救援)
	村橋 一	(麻酔、集中治療、救急)
	藤井 智章	(麻酔、集中治療)
	高木 美希	(麻酔、集中治療)
	橋本 綾菜	(麻酔、集中治療)
	牧野 樹	(麻酔、集中治療)
	濱田 一央	(麻酔、集中治療)
	横地 佑磨	(麻酔、集中治療)
	森川 彰大	(麻酔、集中治療)
	森田 奈那	(麻酔、集中治療)

麻酔科認定病院番号：632

施設の特徴：

1. 外科系のほぼ全てのすべての科の手術があるため、専門医研修で必要とされている特殊症例の麻酔件数はすべて自院で経験可能になっています。また、脊椎手術や生体腎移植手術も多く経験できます。
2. 日本集中治療医学会の集中治療専門医研修施設です。ICU の管理は麻酔科が強く関わっています。内科系、外科系を問わず重症症例の ICU における管理に従事することができます。
3. 救急車の受け入れ台数が、年間 1 万 2 千台近くある救命救急センターを有しており、重症救急患者の緊急手術症例の術前管理、術中麻酔管理、ICU での術後全身管理を一貫して学ぶことができます。
4. 日本心臓血管麻酔学会の心臓血管麻酔専門医認定施設であり、成人の心臓・大血管手術の症例数も豊富で、心臓血管麻酔専門医も複数人在籍して、学習環境は整っており、JB-POT 合格者も多数輩出しています。
5. 総合周産期医療センターであり、産科症例も豊富です。硬膜外分娩に麻酔科は積極的に従事しております。
6. 災害拠点病院であり、かつ国際救援部がありますので、将来的に国内、国外災害救護に携わることも可能です。
7. 休日を取得するシステムを明確化して、疲労しないような働き方を科員の皆さんにお願いしています。

(11) 一宮市立市民病院

研修実施責任者： 加藤 規子
専門研修指導医： 加藤 規子 (麻酔 心臓麻酔)

井上	麻由	(麻酔)
片岡	幸子	(麻酔)
大崎	友宏	(麻酔)
民井	あかね	(麻酔, 心臓麻酔)
仲野	実輝	(麻酔 心臓麻酔)
瀧	友紀	

麻酔科認定病院番号：1506

施設の特徴

尾張西部医療圏の中核病院として、幅広い分野の症例を経験可能です。心臓血管麻酔専門医認定施設です。ワークライフバランスを実践し、快適な職場環境の実現に取り組んでいます。

(12) 公益社団法人 日本海員救済会 名古屋救済会病院

研修実施責任者：東 秀和

専門研修指導医：東 秀和 (小児麻酔)

平林 綾香 (小児麻酔)

本池 有希 (麻酔)

成田 沙里奈 (麻酔)

鈴木 藍子 (麻酔)

片岡 万紀子 (心臓麻酔)

専門医：小林 千尋 (麻酔)

杉浦 春香 (心臓麻酔)

古橋 聖子 (麻酔)

服部 裕樹 (麻酔)

喜田 藍 (麻酔)

宮田 尊安 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：760

施設の特徴

救命救急センターを併設しているので多発外傷などの緊急手術が多い。末梢神経ブロックも年間1200件程施行している。

産科麻酔の専門施設でトレーニングを受けた麻酔科医主導で無痛分娩を年間50件ほど行っている。

小児病院でトレーニングを受けた小児麻酔認定医が在籍し小児麻酔を指導している。心臓血管麻酔専門医認定施設でもあるので心臓血管麻酔のトレーニングもできる。

(13) 国立病院機構 豊橋医療センター

研修実施責任者：安田 邦光

専門研修指導医：安田 邦光 (麻酔, 集中治療)

吹浦 邦幸 (麻酔)

猪島 まり (麻酔)

麻酔科認定病院番号：1298

施設の特徴

東三河地域の基幹病院の一つ。

一般床348床 (うち緩和48)、重症心身障害40床の計388床。

消化器外科，肩関節はじめ整形手術を中心に脳神経外科，耳鼻科，口腔外科等の主に全身麻酔症例を応需しています。
手術室スタッフはじめ各科医師ととてもよい雰囲気働けます。

(14) JA 愛知厚生連 豊田厚生病院



豊田厚生病院 <http://toyota.jaaiikosei.or.jp/>

研修プログラム統括責任者：上原 博和 anest.trust@gmail.com

専門研修指導医：上原 博和（麻酔）

小島 康裕（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・無痛分娩）

岩 伶（麻酔・小児麻酔）

伊藤 雅人（麻酔・集中治療・小児麻酔）

酒井 博生（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・無痛分娩）

川口 里奈（麻酔）

川口 大地（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・無痛分娩）

麻酔科認定病院（認定第 1456 号）

特徴：

- ・西三河北部における地域中核病院。豊田市の市民病院的役割を担う。
- ・地域中核災害医療センター、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院であり年間救急車受け入れ約 8,200 件を行っている。ドクターヘリによる搬送、ドクターカーの運用を行っている。
- ・成人心臓血管手術が年間 150 例程度あり少人数の専攻医でローテーション担当することで経験値が多く得られる。
- ・Hybrid 手術室にて、EVAR・TEVAR・TAVI・LAAC 症例が増えている。
- ・硬膜外麻酔、末梢神経ブロックについてはそれぞれ年間 150 例以上修練が可能である。
- ・麻酔手技に関する動画教育に力を入れている。「あねす亭ふえん太」氏との独占提携により一般公開もしくは非公開の大量動画を閲覧することができ、各自のペースで手技に対する理解を深めることが可能である。
- ・麻酔時緊急状態には「緊急コールシステム」により瞬時に指導医群がヘルプに駆けつける事が可能である。
- ・術前検査をスムーズに不備なく執り行うことが可能となる「術前検査センター」機能の運用と「麻酔科術前外来」に携わることで、雑務を極力アウトソーシングしつつかつ術前評価不足無く患者把握が出来る。
- ・ペインクリニック専門医指定研修施設である。超音波ガイド下神経ブロック、X 線透視下神経ブロック、手術療法を積極的に取り入れており修練が可能である。
- ・麻酔科医主導で無痛分娩管理を行っており修練が可能である。
- ・日本緩和医療学会認定研修施設であり、緩和ケア講習会を定期的開催している。
- ・日本緩和医療学会指導医資格を有する麻酔科医を中心に緩和ケア病棟を運営している。
- ・麻酔科医が緩和ケアチームの一員として関わっており、がん性疼痛にも神経ブロック及び手術療法を積極的に施行している。

(15) 社会医療法人宏潤会 大同病院

研修実施責任者： 神田 学志
専門研修指導医： 神田 学志 （麻酔、ペインクリニック）
三宅 来夢 （麻酔、ペインクリニック）
久保寺 和美 （麻酔）
鹿田 百合 （麻酔）
専門医： 鷹津 冬麿 （麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号：986

特徴：名古屋市南区で、年間約 2800 例の手術症例を担当している。心臓血管外科以外の一般的な臨床麻酔を経験できる。希望者は外来診療でペインクリニック（神経ブロック、脊髄刺激療法など）を担当することも可能である。

(16) 日本赤十字社 伊勢赤十字病院

プログラム総括責任者：中川 裕一
指導医：中川裕一 （麻酔、心臓麻酔）
藤井 文 （麻酔、心臓麻酔）
北川愛子 （麻酔）
専門医：宇佐美 良子 （麻酔）

認定病院番号：735

特徴：三重県南勢部の医療の中心となる総合病院。総手術件数は約 7,400 例あり、ほぼ全ての診療科が揃い豊富な症例を経験できる。特色として成人心臓麻酔症例が多く、JB-POT 認定医・心臓麻酔専門医も複数おり指導体制が整っているため資格が取得しやすい。超音波ガイド下末梢神経ブロック対象麻酔症例が豊富であり、多彩な神経ブロックを行っている。TAVI も豊富な症例があり、経カテーテルでの左心耳閉鎖術や PFO 閉鎖術も経験可能

(17) 兵庫県立こども病院

研修実施責任者：香川 哲郎
専門研修指導医：香川 哲郎 （小児麻酔）
高辻 小枝子 （小児麻酔）
大西 広泰 （小児麻酔）
宮本 義久 （小児麻酔）
上嶋 江利 （小児麻酔）
末田 彩 （小児麻酔）
藤原 孝志 （小児麻酔）
田中 康智 （小児麻酔）
上野 真穂 （小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：93

特徴：小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。

小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2024年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、名古屋市立大学麻酔科専門研修プログラムWEBサイト、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

名古屋市立大学病院 麻酔科

統括責任者：祖父江和哉

実務担当：青木 優祐

愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

TEL 052-851-5511（内線 8281） FAX 052-852-1148

E-mail：kensyu@ncu-masui.jp

website URL：<http://www.ncu-masui.jp/>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識**、**専門技能**、**学問的姿勢**、**医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料『**麻酔科専攻医研修マニュアル**』に定められた**経験すべき疾患・病態**、**経験すべき診療・検査**、**経験すべき麻酔症例**、**学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料『**麻酔科専攻医研修マニュアル**』に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目：手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目：1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目：心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目：3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- ・ 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- ・ 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して2年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない。ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての名古屋第二赤十字病院，岡崎市民病院，安城更生病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業する。専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には，当該施設の施設長，研修責任者に文書で通達・指導する。